

コーディネーター ただ今から事業番号3番の「青少年宇宙科学館と宇宙劇場のあり方について」の審議を行います。資料34ページをご覧ください。

事業所管部局 それでははじめに、青少年宇宙科学館の事業概要についてご説明します。宇宙科学館は昭和63年に青少年の科学の関心を高め、科学教育の振興に寄与するとともに、未来社会に対応できる創造性豊かな青少年の育成を図るため設立されました。主な事業として、プラネタリウム投影事業、展示事業、普及事業を実施しています。プラネタリウム投影事業では、平成20年にリニューアルした投影機でダイナミックな映像を映し出すことができ、さいたま市ではなかなか見ることができない美しい星空をゆったりと楽しんでいただいております。展示事業につきましては、小さな子どもが「見て触れてチャレンジできる科学館」をテーマに、常設展示や特別展示を通して科学・宇宙の情報や児童生徒の作品、自然科学に関する資料等を紹介しております。普及事業については、科学に関する知識や最新の科学情報をテーマに、さまざまな科学教室などを開催しております。また、土曜日祝日には、天文台や電子顕微鏡、サイエンスショーを公開しています。特に、ご当地キャラクターを目指すさいレンジャーはメディアにも注目されており、特別サイエンスショーには多くの市民の方々にご好評をいただいております。

次に、宇宙劇場の事業概要についてご説明いたします。宇宙劇場は昭和62年に市民の科学知識の普及と文化活動の推進、地域文化の向上を図るため設立されました。主な事業としては、プラネタリウム投影事業、そしてドーム全体に映像を映し出す大型映画の上映、天体観望会、会議室の貸し出し等を行っております。大宮駅西口に位置し、アクセス条件が良く、午後9時まで開館していることなどから、さまざまな年代層の方々にご利用いただいております。特に会議室は、利用率が約96.8パーセントと大変高く、昨年度は7万人以上の方にサークル活動や生涯学習の活動の場としてご利用いただいております。また、日本宇宙少年団の活動支援事業を実施しております。これは全国に約4,000名の団員、800名のボランティアリーダーを要する団体で、宇宙教育実践ネットワークで組織された140分団の一つが宇宙劇場を拠点に活動しています。科学工作、天体観察、野外活動、社会貢献活動などを行っています。さいたま支部では、現在約100名の団員が所属しています。

次に事業費についてご説明いたします。宇宙科学館はさいたま市の直営です。一方で宇宙劇場はさいたま市文化振興事業団が指定管理をしております。資料40ページ上段のグラフは、宇宙科学館と宇宙劇場の平成25年度から27年度までの事業費の推移を表しております。なお、平成27年度の予算額は、昨年度の決算額と比較して2億円程度増えています。これは、宇宙劇場のあるJACK大宮ビルが建設後28年経過し、躯体、設備などが老朽化したため、ビルを60年間維持するためには、定期的な大規模修繕が必要とされており、ビルの区分所有者として改修工事費を負担するため、このようになっております。

次に事業成果についてご説明いたします。まず、学習投影の成果でございますが、青少年宇宙科学館および宇宙劇場では、プラネタリウム等を活用しました学習利用を実施して

おります。市内にある全ての小学校 103 校の 4 年生、中学校 57 校の 3 年生を対象にしております。この学習活動は、教育指導計画に位置付けられており、理科教育の専門の指導主事が指導にあたります。このことは、政令指定都市の中でも他に例を見ない取組でございます。資料 40 ページ下段のグラフは平成 26 年度に学校を対象に行ったアンケート結果です。左の方が小学校 4 年生、右のほうが中学校 3 年生の担当の先生がたからいただいたものです。「興味関心」、「児童生徒の理解」、「解説の分かりやすさ」を聞きました。A とあるのは「満足、とても良かった」、B は「ほぼ満足、良かった」という結果です。グラフを見ますと、ほぼ全校から高い評価をいただいていることが分かります。

次にプラネタリウム事業の成果についてです。青少年宇宙科学館および宇宙劇場において実施しております。2 館ともに小中学生を対象にした「学習利用」のみならず、一般の方を対象にした一般投影、幼稚園、保育園の園児を対象にした「幼児投影」など、さまざまなニーズに応じた投影を行っております。天文現象、物語を題材にしたプラネタリウム番組や、今夜見える星空の解説を行っております。さらに、今夜の星空解説と生演奏、それから落語などを組み合わせたプログラムを実施しており、お客さまからはご好評をいただいております。その中でも、プラネタリウムを見ると眠くなってしまうということを逆手に取り、気持ち良く熟睡していただく企画、「熟睡プラ寝たリウム」は、新聞でも広く取り上げられて、宇宙科学館を PR する機会を得ることができました。

次に、若田宇宙飛行士顕彰事業の成果です。子どもたちの宇宙への夢を育むために、市民の宇宙や宇宙開発への関心を高めるため、本市出身の宇宙飛行士である若田氏の活躍を検証しています。青少年宇宙科学館および宇宙劇場において企画展を開催。また、平成 26 年 8 月には市民会館おみやに 1,160 名の市民の方を集め、若田宇宙飛行士ミッション報告会を実施。そして他課と連携して祝賀パレードも実施しました。多くの市民の方々に国際宇宙ステーション日本人初の船長の就任とその活躍を祝う機会を提供することができました。

最後に課題についてご説明いたします。建築後 30 年近く経過し、施設設備の老朽化が進行しております。特にプラネタリウム機器については、維持管理費が高い上に、修理部品の確保が難しいもの、メーカーの保証が終わってしまう部品があるなど、万が一故障してしまうと修理ができないこともあります。特に宇宙劇場のプラネタリウム機器については老朽化が激しく、緊急に更新する必要があります。また、宇宙科学館においても、投影に必要なプロジェクターは 6 年程度の使用を想定している機器であり、計画的な更新が必要です。そして、市内に類似施設が 2 館併存していることも大きな課題です。庁内において検討した結果、当面は 2 館を併存し、将来的にはプラネタリウムを備えた施設は 1 館とする方向が妥当であるという結論に至りました。今後も公共施設マネジメント計画に沿いまして、政令指定都市にふさわしい科学館の将来構想について検討してまいります。

以上で青少年宇宙科学館と宇宙劇場のあり方について事業説明を終わります。

コーディネーター 次に、改革担当部局からこの事業についての論点、課題について説明をお願いします。

改革担当部局 資料 35 ページの下に論点が記載してありますのでご覧ください。

旧市が平成 13 年に合併いたしまして、現在もこのプラネタリウムを持つ同じような施設が 2 館併存していることから、結局運営とか維持管理の経費が二重にかかっているのが現状です。そこで、平成 22 年に行財政改革プラン 2010 の中に、青少年宇宙科学館と宇宙劇場のあり方の検討というものをプログラム事業として取り上げ、検討を重ね、一定の方向性は示されたのですが、さらに課題を詰めて、十分なコンセンサスを得ることが必要という意見もありましたので、継続して検討していくこととなりました。

そこで、最初に論点の一つ目です。現在に至る経緯として、あり方庁内検討委員会での検討内容についての話をお聞かせください。

論点の 2 番目として、2 館の利用状況についてお伺いします。

最後の論点として、今後の方向性についての議論を行いたいと思っております。

コーディネーター 今の論点に沿って、審議を行いたいと思います。

改革担当部局 平成 23 年度にあり方庁内検討委員会というのを設置しまして、科学館のあり方について検討されてきましたが、それについての経緯の説明をお願いします。

事業所管部局 さいたま市には 2 つのプラネタリウム施設がございます。これは、旧大宮市、旧浦和市時代に建設された施設であり、それぞれ当時 40 万人規模の施設といえます。その後合併に伴い、類似施設を 2 つ持つようになりました。市の規模は拡大したものの、他政令市と比較すると、科学館規模が小さいこと、それからプラネタリウムを持つ施設が市内に 2 つあること、運営維持管理、経費等の課題について、平成 23 年度から庁内においてあり方検討委員会を設置し、3 年間検討を重ねました。検討の結果、当面の間は 2 館併存、将来的にはプラネタリウム施設を持つ 1 館にしていくという方向性が妥当であるとの結論に至り、現在はあり方構想の具現化に向けてさらに検討を重ねているところです。

改革担当部局 それでは、現在さらに検討されているということで、そのあり方の構想につきましても、教育委員会として今後どうしていきたいかも含めて、お伺いしたいと思います。

まず、現在の 2 館、おのおの運営と維持管理費というのはどのようになっているのでしょうか。

事業所管部局 平成 26 年度の維持管理費についてご説明をさせていただきます。まず、青

少年宇宙科学館の維持管理費でございますが、2億760万3000円でございます。この中には、ビルの清掃や、警備、設備管理、保守点検などの業務も含まれてございます。

次に宇宙劇場につきましては、1億6159万2000円です。なお、宇宙劇場につきましては、指定管理者が施設を管理しております。平成27年度と平成28年にかけては、宇宙劇場のビルであるJACK大宮ビルが大規模修繕を実施するために、宇宙劇場の平成27年度の予算は例年と比較すると、負担金分として増加しています。

改革担当部局 それぞれのプラネタリウムの維持管理費というのはどのようになっていますか。

事業所管部局 平成26年度のプラネタリウムの維持管理費ですが、青少年宇宙科学館は保守点検費用が1,533万1000円、プラネタリウム番組費用が1,495万8,000円です。

宇宙劇場は、保守点検費用が405万円、プラネタリウム番組費用が1,058万4,000円、超大型映画の機器保守点検費用が704万2,000円、番組費が1,603万8,000円です。

改革担当部局 数字だけだと、施設相応の規模もありますし、施設の特性上その経費が多いか少ないか判断しにくいところがあります。いずれにしても、恐らく2館持っているということは、1館よりも経費がかかっているということは間違いなので、議論を重ねたうえで、早くそういった状況を解消し、1館にしていく必要があると思っています。

2つ目の論として、利用状況について、どれぐらいの方が利用しているのか、入場料収入と合わせてお話しいただけたらと思います。

事業所管部局 両館とも館内に入るための入館料はありません。プラネタリウムの入場料は宇宙科学館は大人が510円、4歳から高校生までは200円です。宇宙劇場は大人が610円、4歳から高校生までが子ども料金として300円です。

プラネタリウムの年間の利用者数は、平成26年度で、宇宙科学館は5万4,261名の方にご利用いただきました。総利用者数が12万7,841名でございますので、全体の42.4パーセントの方にプラネタリウムにご入場いただきました。なお、プラネタリウムの利用者数のうち、市内の小中学校の児童生徒1万7,605名が授業の一環として利用しています。

次に宇宙劇場のプラネタリウムですが、5万1390名の方にご利用いただいています。平成26年度の総利用者数が12万3639名でございますので、全体の41.6パーセントの方にプラネタリウムに入場していただきました。同じく授業の一環として利用している小中学校の児童生徒9,509名が総利用者数に含まれています。

また、宇宙劇場では、プラネタリウムのホール内で、超大型映画というのも行っており、年間で8,440名、さらにアロマセラピーとか、またコンサートなどのイベントとして2,878名の方にご利用いただきました。

またその他、この2館では施設の貸し出し業務というのを行っています。宇宙科学館においては、演劇やピアノ等の発表会ができる青少年ホール、講演会を行うことができる視聴覚ホール、また地域、サークル等でご利用いただいているパソコン教室などがあり、全て有料でご利用いただいています。平成26年度の利用者数ですが、青少年ホールは3万7,296名、視聴覚ホールが7,335名、パソコン教室が1,059名です。

宇宙劇場では、三つの集会室、スタジオ、研修室、プラネタリウムホールがあり、同じく有料にてご利用いただいています。平成26年度の利用者数は7万1,585名です。

宇宙劇場の特色ですが、施設の貸し出しの利用率がすごい高くなっています。平成26年度は平日で約207.2名、土日で204.1名と曜日にかかわらず多くの方にご利用いただいております。集会室の利用率は96.8パーセントになっております。大宮駅に近い、また午前9時から午後9時まで館を開いているということが大きな要因だと考えています。いずれにしても、さまざまな年代の方に生涯学習の場として活用していただいていることは、私ども所管として大変喜ばしいことであるということで認識してございます。

最後に収益ですが、宇宙科学館では管理運営費用として市の収入としておりますが、一方宇宙劇場では指定管理者ということで、この収入は指定管理者のところに入ることになっております。

改革担当部局 様々な利用料収入あるということですが、年間でどの程度の収入があるのでしょうか。

事業所管部局 平成26年度のプラネタリウム入場料と施設貸し出しの使用料を合わせた収入が、宇宙科学館は1,100万8,000円、宇宙劇場は3,052万9,000円です。

改革担当部局 宇宙劇場の会議室の使用料によってこれだけの差が出ているのではないのでしょうか。立地条件もあると思います。宇宙劇場の会議室を利用していただいているというのは、悪いことではないのですが、施設の設置目的から外れているのではないかと思います。

利用収入を得るにあたっての利用者数が、若干減ってきていますが、その辺りの傾向と原因についてどのように考えているのか教えてください。

事業所管部局 宇宙科学館のプラネタリウムでは、学習利用を除いて考えますと約半数が子ども、宇宙劇場は3分の1が子どもになります。長期的に見ると、どちらの館も増加はしています。しかし、ここ2、3年はやや減少傾向にあるのは確かです。その原因としては、投影する番組と近隣に新設されたプラネタリウム施設の影響があると思われれます。

番組については、ポケットモンスターとかドラえもんなど小さな子どもに人気のあるキャラクターが出てくるような番組であればたくさん利用していただけますが、宇宙科学館

と宇宙劇場は最新の科学情報を提供する役割もあるため、科学の詳しい内容を扱った番組を選定することから、入場者の増加につながらないこともあります。

さらに、近隣にプラネタリウムが新設されることや、リニューアルされることも入場者数に影響があると思います。県内では、川口市の科学館、都内では足立区のギャラクシיתי、東京スカイツリーのところには「天空」など、次々に魅力のあるプラネタリウムができてきました。それから、最新機能を備えたものとして、埼玉県加須市の加須未来館では8Kプロジェクターを使った、より鮮明な映像を表現できるようなプラネタリウム施設ができ、新聞などでも取り上げられておりました。なお、川口市の科学館、それから加須市の未来館については市の直営、足立区のほうは指定管理を行っています。天空は民間による運営となっています。都内の施設は、最新機能を備えた施設ができたことによる影響を受け、他の施設でプラネタリウムを楽しんでいただいている方が増えてきていると思うのですけれども、しかし違った視点で考えますと、プラネタリウムの必要性が高まっているともいえます。都心部であっても宇宙の美しさ、神秘さに触れることができる施設をいろいろな地域で求めているといえます。さいたま市では日本一の教育都市を目指しておりますので、政令指定都市にふさわしい科学館のあり方について、さらに検討していきたいと考えております。

改革担当部局 日本一の教育都市を目指して、政令指定都市にふさわしい科学館のあり方をさらに検討していく、ということですが、他の政令市ではどのような機能を持った科学館が実際に設置されているのでしょうか。

事業所管部局 機能面としては、科学のさまざまな分野がありますので、そういった分野を扱っている展示施設、またプラネタリウムホール、天文台、それから実習室などの施設を設置しているところが多いです。また、展示物については、解説パネルを読むというよりは、体験することで科学の仕組みをとらえさせるようなものが増えてきています。

また、近頃では、生涯学習施設を複合した施設というものもありまして、例えば千葉市の科学館では、子育て支援館といったものと保健福祉センターの中に科学館を置くという例もありました。あと、大阪府の堺には、ソフィア堺プラネタリウムというのがあるのですが、こちらは教育センターとプラネタリウムを複合した施設となります。

改革担当部局 利用者1人あたりのコストというのは大体どのくらいなのでしょう。

事業所管部局 宇宙劇場ではプラネタリウム機器を開館当初に買い取っておりますが、宇宙科学館はリースしています。従って、比較にならないので、これは含まないことにしてプラネタリウム維持管理費としてお答えをいたします。

まず平成26年度における宇宙科学館のプラネタリウム維持管理でございますが、3,028

万 8,600 円、宇宙劇場のプラネタリウムは 1,463 万 4,000 円でございます。宇宙劇場の超大型映画については、2,307 万 9,600 円です。1 人あたりの額にしますと、宇宙科学館プラネタリウムは約 558 円です。宇宙劇場プラネタリウムは約 340 円、宇宙劇場の超大型映画では 2,735 円となっています。以上です。

改革担当部局 資料 34 ページの事業概要説明書の事業費についてですが、人件費も含めて事業費総計で 4 億 7,000 万かかっています、実際に青少年宇宙科学館、宇宙劇場の入場者数がその下に出ています、これが両方共 12 万何千人、暗算をすると、25 万 1,000 人ちょっととなるのでしょうか。それで、計算すると、1 人あたり入館者で年間ですと 1,800 円超えているのです。そういう見方をすると、やはり 2 館持っているということについて経費は大きいと認識しています。

改革担当部局 さいたま市では市内の全小中学校を対象にして学習利用していて、他の政令市でそういったことを実施していないというご説明ですが、他の政令市では学習利用の実施状況というのはどういったことになっていますでしょうか。

事業所管部局 科学館を持たない政令市も 2 市あります。プラネタリウムを持っている 15 都市のうち、相模原市と北九州市は、授業の一環として小学校全校を対象にプラネタリウム教室を実施しています。他の 12 都市は、各校の希望によって実施をしています。全小中学校を対象にプラネタリウム教室をやっているのはさいたま市のみとなります。本市の教育活動の施策として、誇れる事業の一つと考えております。感受性が豊かな小中学生の子どもたちにプラネタリウムを実施するということは、天候とか観測時間などを配慮することなく星空を映し出して実りのある授業にすることはもちろん、同じ星空を見て宇宙や科学に夢中になれる時間はかけがえのないものととらえております。

改革担当部局 宇宙や科学に夢中になる時間というのはかけがえのないものというお話がありました。児童生徒の教育効果などの成果はどのようなものがあるのかご教示ください。

事業所管部局 例えば、全国学力学習調査ですが、平成 24 年度の実施結果では、小学校 6 年生、中学校 3 年生は、理科の勉強が好きですか、という質問に対して、小中ともに好きという回答が 2～3 パーセントですが上回っています。また学力調査も本市は小学生は 3 パーセントぐらい全国平均を上回っていますので、大変高い結果が得られていると考えています。本市では理科教育推進のために、さまざまな事業に取り組んでいますので、全てが宇宙科学館とか宇宙劇場が行っているプラネタリウム教室の成果を取り出すことはできないのですが、一助にはなっていると思います。

また、学校からの報告の中にあつた児童の感想を紹介したいと思います。「家に帰ってか

ら星を見てみよう、次の満月が楽しみだ、というような声が多くあり、月や星に関する興味とか関心が高まりました。」「街明かりのないときの空を見て、こんなにも実は星があるんだなあということに驚きました。」

また「若田さんの映像や活躍を紹介するコーナーを見学し、若田さんの偉業を知ることを通して、宇宙や科学に関心を深めていました。」という感想がありました。

このように、児童の様子からも、宇宙や科学への興味関心を高めているだけでなく、自然環境に目を向けたり、若田宇宙飛行士の活躍を知って、夢やあこがれにつながっている、教育効果の高い事業ととらえております。

改革担当部局 小中学校全校で実施していることが本市の特徴であって、教育都市としての面目躍如だと思いますし、それなりの成果をあげていることは非常に素晴らしいと思います。

改革担当部局 最後の論点ですが、宇宙科学館と宇宙劇場では、直営と指定管理と管理運営の方法が現在異なっていますが、さらに民間の管理運営のノウハウを活用し、効率的に進める方向性というものも必要ではないかと考えています。それについて、考え方をお聞かせいただけないでしょうか。

事業所管部局 今後、仮にですが、新しい施設を導入ということになったりする場合に、選択肢の一つに民間の力を借りるという方向性は検討していきたいと考えております。他政令市の事例にも、直営や指定管理、また一部指定管理など、さまざまな民間活力の活用の形態があるので、それぞれのメリット、デメリットについて検討していきたいと考えています。当面の間は、あり方庁内検討委員会での検討結果を踏まえて、既存の施設を生かすことを考えています。宇宙科学館では主に学校との連携、科学展示施設といった特色を活かした事業を進めていきたいと思っています。また宇宙劇場ではこれまでと同様にさまざまな年代の方にご利用いただけるプラネタリウム、また生涯学習の場の提供に努めていきたいと考えています。また将来的には、プラネタリウム施設を1館としていくことを検討してまいります。その際には、市民サービスの質を落とすことなく、2館がこれまで築いてきた若田宇宙飛行士の活躍を顕彰する事業、そしてプラネタリウムを生かした学習の継続、推進をしていきたいと考えます。特に本市出身の若田宇宙飛行士の活躍を市民の皆さまに広めていくことが、夢や希望を育てていくことにつながっていくと考えます。そして将来、第2第3の若田さん、または世界で活躍するリーダーが本市から生まれてくれることを期待しています。

改革担当部局 当面は2館当面併存ということですので、維持管理コストの縮減については引き続き取り組んでいただきたいと思います。将来的には2館とも建て替えも含めた更

新が必要になると思います。その際、プラネタリウムは民間のものと同じものではなく、科学館として備えるべき機能はどうか検討していただきたいと思います。さらに、本市の特徴である、小中学校全校対象としたプラネタリウム教室を行うための適正な施設規模や管理の在り方についても考える必要があります。

また、さいたま市は公共施設マネジメント計画に基づきで施設の複合化等を積極的に進めていますので、施設複合化も検討できると思います。移転するとなった場合、現地をどうするかという話も出てくるかもしれない。そういったさまざまな論点が今後あろうかと思っています。今申し上げた点も含めまして、今後の取り組みの方向性について、総括的なコメントをちょうだいしたいと思います。

事業所管部局 本市は日本一の教育都市を目指していくということを申し上げました。魅力ある生涯学習環境の整備というのは非常に重要な課題だと思っています。特に宇宙科学館と宇宙劇場については、2館あるということで、既存施設については当然コストの縮減、維持管理を考えていかななくてはけません。そして、仮に新館を造る場合には、公共施設マネジメント計画に基づいて、複合化であるとか、なるべく維持管理コストを縮減しながら市民サービスも低下させないようにということで、非常に難しい課題もありますが、努めてまいりたいと思っています。

コーディネーター それでは審議を終結したいと思います。ご意見あるいはご発言がある方は挙手の上お願いします。

市民委員 質問というか、この40ページの、学習等への、成果のグラフの見方なんですけど、小学生4年と中学生3年生で理解度がとても良くできたという話のレベルが、中学生のほうが少し低いというのは、これはプログラムが違うという考えでしょうか。

事業所管部局 プログラムについては、小学校の教育指導計画に基づく内容のものと、中学校向けのものがあり、違うものを投影しています。中学生の評価がなかなかあがっていないというところがあります。

市民委員 私は大宮市なんですけど、昔宇宙劇場ができる前、どうして大宮市にないのかというのが非常に疑問に思っていて、宇宙劇場があったことが非常に喜びを感じたことがあります。これ、費用の面もいろいろあると思いますけど、やはり費用だけで考えられないところもありますので、二つあることがいろいろ無駄とか、そういうふうなところもあるかと思いますが、それは統合も頭にあると思いますけど、ぜひこういう夢のあるものは、子どもたちに残していただきたいという考えです。

コーディネーター ありがとうございます。ご意見、ご質問等ある方、いらっしゃったらお願いいたします。

コーディネーター 質問等のある方がいらっしゃらないようなので、質問させてください。さいたま市は今若田光一さんのお話もありましたけども、もう少し若田光一さんの出身地なんだということをPRして、宇宙劇場と青少年宇宙科学館を一体化していく中で取り組んでいくということを、もっと強く出したほうがいいのではないかと思うんですけど、その辺についてはどうお考えになっていらっしゃるでしょうか。

事業所管部局 ちょうど今油井宇宙飛行士が国際宇宙ステーションにいるというようなこともありまして、それぞれの出身地が取り上げられるということもありました。若田宇宙飛行士についても、今回国際宇宙ステーションに物資を補給する、このとりをドッキングする作業をやっているので、問い合わせなどがありました。ただ、若田宇宙飛行士はJAXAというところに所属しているのもありますので、一概に全面協力というのはなかなか難しいところがあり、若田宇宙飛行士を押し出していくというよりは、若田宇宙飛行士に協力してもらうような事業を実施しています。例えば先ほど出てきました学習投影の中にも、子どもたちにメッセージをいただいております。夢や希望を育むために、こんな頑張りが必要なんだよという子どもたちに向けたメッセージは、とても熱いものを感じていて、素晴らしいと思います。こういったものをもう少し力を入れて取り組んでいきたいと考えております。

コーディネーター ありがとうございます。他にご意見等がある方はいらっしゃいますか。

市民委員 この2つの館のあり方ということで資料をいただいているんですけども、将来的には2つ持つというのは非常にさいたま市の財政からいっても厳しいんじゃないかならうかと。個人の財布を考えてもやっぱりつらいと思います。ただ、今回この比較を、すぐしなくちゃいけないのかどうかは別にして、今日この場で検討するにあたって、事業所管部局が出してきているデータが、数字にしても、表にしても非常に少な過ぎて、数字を羅列で、そこでべらべら言われても頭に残らないんで、比較検討せいと言われても、ちょっとつらいなど。やはりこのレジュメの中に、両館の入館者数、小学生は何人動員したのかとか、その辺の数字を事前に出していただかないと、ちょっと今日ここで厳しいなというのが感想です。

両館それぞれ別の立地にあるから、大宮のあそこにあるのは非常に場所的にはいい場所です。だから、今さいたま市のいろいろなことを検討されていると思うんですけども、あそこは鉄道博物館からの帰り道でも、行き道なのか帰り道なのか、そういうコースを一つ設定するならば、特に金曜日はロマンスコースとして若い男女にたくさん集まってもらえ

るような、そういうプラネタリウムプログラムを組んでもらって、大勢の人がこのさいたま市のみならず地方からも鉄道を利用してたくさん来てもらえるようなものを考えていただいたらいいんじゃないかなと。それからあと、青少年のほうは、場所が駒場のほうでしたっけ、だからちょっと駅からというと離れているので、逆にバスかなんかを利用すれば、小中学生を教育プログラムの一環としてたくさん年に何回でも利用してもらえるんじゃないかなと。だから、両方持つというのも確かに難しい話なんけども、生かした方によっては両方共存できるんじゃないかというふうにも感じています。いろんなあれがあるかと思えますけども、ひと言。

コーディネーター どうもありがとうございました。

いくつかご意見いただいたシートを紹介したいと思います。「最新のプラネタリウム機器を導入することを進め、2館の統廃合には賛成です」、「2施設のすみわけということは単に旧市施設のものそのままある必要があるのか」、「2館維持するためにも、それぞれ館の役割、魅力付け、ターゲティングを変えて運営することが求められるのではないのでしょうか。同じようなことを2軒でやる意味は理解できません」というご意見。「第2第3の若田さん、次世代リーダーの育成等視点は好ましいことです。市が持っている教育システムを公開活用するなど、教育委員などいっそう連携されてはいかがでしょうか」というご意見等々をいただきました。ありがとうございます。

いただいたご意見は今後の参考にさせていただくとともに、さいたま市のウェブサイトでも公開する予定です。

以上で、事業番号3番の「青少年宇宙科学館と宇宙劇場のあり方について」の議論を終了します。

(了)